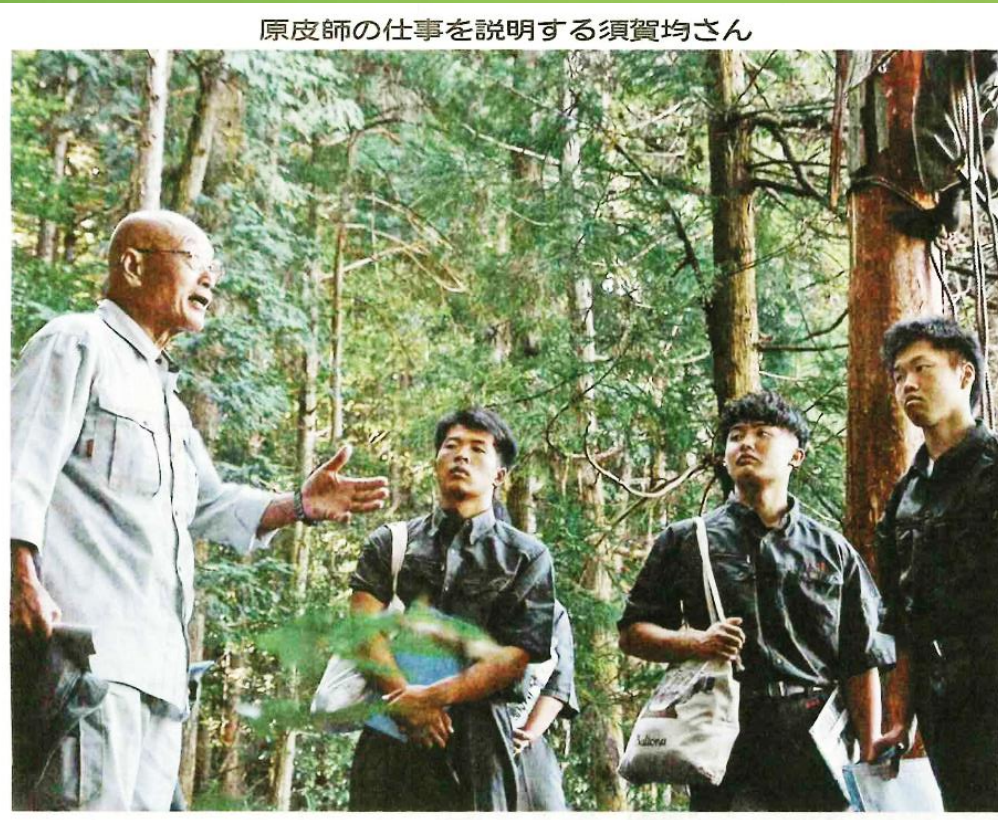


3年 総合実習 現場見学 学科の活動を取り上げていただきました！ (岐阜新聞 令和6年10月18日付掲載)

原皮師の技に熱視線

檜皮葺き屋根に使うヒノキ皮を採取する「原皮師」の仕事の現場見学会が、山県市小倉の東光寺裏のヒノキ林であり、岐阜農林高校（北方町）森林科学科の生徒が職人技に触れた。
(安井真由子)



原皮師の仕事を説明する須賀均さん

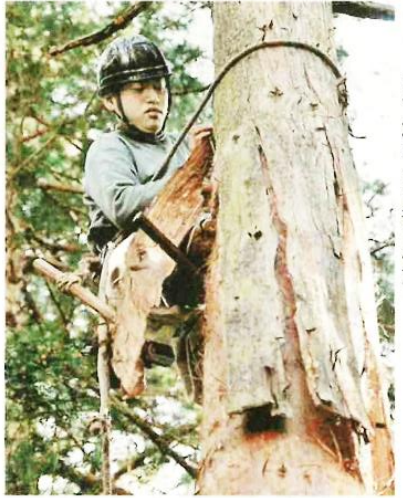
岐阜農林高生が現場見学

原皮師は縄1本で生木に登り、木のへらで皮を剥ぐ。飛鳥時代から続く伝統ある仕事だが、手間と費用のかかる檜皮葺き屋根は減り続け、職人は全国でも100人を下回る。

見学会は寺の屋根のふき替えをする縁で、田中社寺（岐阜市）が開いた。彦坂怜宗住職（39）は生徒8人を前に「若い人に原皮師の仕事を知ってもらうことが、



樹皮を触る生徒



縄1本で木に登り、樹皮を剥く原皮師
＝いずれも山県市小倉

縄1本「命がけだが魅力的」

この文化を後世につなぐ近道になる」と話した。

ヒノキ林に入り、同社の原皮師の須賀均さん（76）が「同じ木から10年ごとに採取するため、木を傷付けてはいけない」と説明。数十センチまで軽々と登っていく職人を、生徒は驚いた様子で見上げていた。

3年の原嶋唯斗さん（18）は「命がけだが、憧れてこの仕事に就いて働く人たちが魅力的だった」と目を輝かせていた。

